

# 大府市ヤングケアラーに関するアンケート調査 結果報告書【概要版】

## 1. 調査概要

調査目的	○本市では令和4年度から愛知県のヤングケアラー支援モデル事業を受託し、ヤングケアラー本人および家族への支援事業を実施しています。本市のヤングケアラーに係る現状及び課題を顕在化させるとともに、支援施策の策定についての基礎資料とすること、さらには、アンケートの回答者が、アンケートへの回答を通じてヤングケアラーの現状及び課題についての認識を深められるとともに、支援の必要性について思索する契機とすることを目的に、子どもと学校教職員を対象に調査を実施しました。																				
調査対象	○子どもを対象とする調査は、大府市内の公立の小学校、中学校及び高等学校に在籍する児童生徒(小学5年生、中学2年生、高等学校2年生)全員です。 ○学校教職員を対象とする調査は、本市内にある公立の小学校、中学校及び高等学校に勤務する教職員全員です。																				
調査期間	○令和5年10月～12月中																				
調査方法	○調査の回答URL(二次元コード)を記載したものを直接配布し、WEB上で回収を行いました。																				
回収状況	<table border="1"> <thead> <tr> <th>調査対象者</th> <th>配布数(件)</th> <th>有効回答数(件)</th> <th>有効回答率(%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>教職員</td> <td>584</td> <td>421</td> <td>72.1</td> </tr> <tr> <td>小学5年生</td> <td>939</td> <td>786</td> <td>83.7</td> </tr> <tr> <td>中学2年生</td> <td>914</td> <td>778</td> <td>85.1</td> </tr> <tr> <td>高校2年生</td> <td>609</td> <td>449</td> <td>73.7</td> </tr> </tbody> </table>	調査対象者	配布数(件)	有効回答数(件)	有効回答率(%)	教職員	584	421	72.1	小学5年生	939	786	83.7	中学2年生	914	778	85.1	高校2年生	609	449	73.7
調査対象者	配布数(件)	有効回答数(件)	有効回答率(%)																		
教職員	584	421	72.1																		
小学5年生	939	786	83.7																		
中学2年生	914	778	85.1																		
高校2年生	609	449	73.7																		

## 2. ヤングケアラーの疑いのある子どもの状況

### 2-1 ヤングケアラーの疑いのある子どもについて

子どもの調査結果より、『現在家族の中にお世話をする必要のある人のうち、自身がお世話をしている子ども』は、小学5年生では33件(対全体比4.2%)、中学2年生では12件(対全体比1.5%)、高校2年生では9件(対全体比2.0%)となっています。この項目の該当者をヤングケアラーの疑いのある子どもとして、学年別に特性や課題について整理しました。

学年	回答者数(件)	家族の中にお世話が 必要な人が いる子ども	家族の中にお世話が必要な人がいる人のうち、 自身がお世話をしている子ども
小学5年生	786	71件(9.0%)	33件(46.5%)/対全体比(4.2%)
中学2年生	778	27件(3.5%)	12件(44.4%)/対全体比(1.5%)
高校2年生	449	22件(4.9%)	9件(40.9%)/対全体比(2.0%)

## 2-2 ヤングケアラーの疑いのある子どもの特性

- お世話の対象では、すべての学年で、年下のきょうだいが高くなっていますが、「母親」、「祖母」「兄・姉」「父親」といった他の家族も対象としてお世話をしている状況がうかがえます。
- お世話の内容では、学年が上がるにつれて、家事などに加え、感情面のサポートやきょうだいの送迎・通院の付き添いなどの屋外でのお世話など、お世話の範囲が広範囲になっています。
- お世話の頻度では、すべての学年で週に「2日以上」が 9～10 割となっています。週に「6日以上」では3割を占めます。
- お世話を始めた時期は、小学5年生では、1年前からが7割、1年以上前から3割となっています。また、中学2年生と高校2年生では、1年前からが4割、1年以上前から6割となっています。お世話を始めたタイミングとしては、小学生からお世話が始まった子どもが一定いることがうかがえます。
- お世話を一緒にしてくれる人の有無では、すべての学年でいる人が多いですが、小学5年生と中学2年生では1割、高校2年生では2割いないとなっています。
- お世話の負担感(つらさ)では、体力的にはすべての学年で3割強がつらさを感じています。また、気持ち的には、学年が上がるにつれて、つらさの割合が高くなっており、小学5年生では3割弱、中学2年生では4割、高校2年生で7割弱がつらさを感じています。学年があがるにつれて、お世話期間の長期化やお世話の内容が広がることなどで、負担が大きくなっていると考えられます。特に、高校2年生では、お世話を一緒に手伝ってくれる人がいないという回答が高くなっていることから、負担が一人に集中している可能性もあります。
- 学校以外で相談できる場所については、おおむね半数以上が「知らない」と回答していることから、「大府市役所(福祉総合相談室など)」、「大府市のLINE相談窓口」「児童(老人福祉)センター」といった学校以外に相談できる場所の更なる周知が必要と考えられます。
- 学校や周りの人にしてほしいことは、すべての学年で「自分の今の状況について話を聞いてほしい」が高くなっています。学年別では、小学5年生では、自由に使える時間がほしいこと、家族のお世話について相談に乗ってほしいことなどが高くなっています。中学2年生では、学校の勉強や受験勉強など学習のサポートや進路や就職など将来の相談に乗ってほしいことなどが高くなっています。高校2年生では、自由に使える時間がほしいこと、進路や就職など将来の相談に乗ってほしいこと、家庭への経済的(金銭面)な支援などが高くなっています。中学2年生、高校2年生では、将来への不安が高くなる傾向にあることが分かります。

表 ヤングケアラーと思われる子どもが該当する状況

項目	主な回答・傾向		
	小学5年生(33件)	中学2年生(12件)	高校2年生(9件)
お世話の対象	「弟・妹」 「母親」 「祖母」	「弟・妹」 「母親」 「兄・姉」	「弟・妹」 「母親」 「祖母」
お世話をしている人の状況	「若い」 「食事や身の回りのお世話が 必要」 「仕事でいそがしい」	「若い」 「身体障がい」 「日本語が苦手」	「高齢」 「若い」 「要介護」 「認知症」
お世話の内容	「身体的な介護(入浴やトイレの お世話など)」 「見守り」 「家事(食事の準備や掃除、洗濯)」	「家事(食事の準備や掃除、洗濯)」 「きょうだいの世話や保育所等への送迎など」 「感情面のサポート(愚痴を聞く、話し相手になるなど)」 「見守り」	「見守り」 「身体的な介護(入浴やトイレのお世話など)」 「家事(食事の準備や掃除、洗濯)」 「きょうだいの世話や保育所等への送迎など」 「外出の付き添い(買い物、散歩など)」 「感情面のサポート(愚痴を聞く、話し相手になるなど)」
お世話の頻度	週に2日以上が9割	週に2日以上が10割	週に2日以上が9割
お世話を始めた時期	1年前から7割 1年以上前から3割	1年前から4割 1年以上前から6割	
お世話を一緒にする人	いない1割		いない2割
お世話をすることのつらさ・悩み(体力)	“つらい”3割強		
お世話をすることのつらさ・悩み(気持ち)	“つらい”3割弱	“つらい”4割	“つらい”7割弱
お世話についての相談経験	ない7割	ない8割弱	ない8割
相談した人	家族、友達、学校の先生	学校、友達、習い事の先生	家族、友達
学校以外で相談できる場所の認知	—	「大府市役所(福祉総合相談室など)」、 「大府市のLINE相談窓口」、 「児童(老人福祉)センター」など ※「どれもしらない」が最も高い	
学校や周りの大人にしてもらいたいこと	「自分の今の状況について話を聞いてほしい」 「自由に使える時間がほしい」 「家族のお世話について相談に乗ってほしい」	「自分の今の状況について話を聞いてほしい」 「進路や就職など将来の相談に乗ってほしい」 「学校の勉強や受験勉強など学習のサポート」	「自由に使える時間がほしい」 「自分の今の状況について話を聞いてほしい」 「進路や就職など将来の相談に乗ってほしい」 「家庭への経済的な支援」

## 2-2 ヤングケアラーの疑いのある子どもの特性②(全体との比較)

- 「ヤングケアラーの疑いのある子ども」について、調査の全体の結果と比較しながら学年別に特性や課題について整理しました。
- 普段の生活の様子からは、欠席や遅刻・早退の有無については、いずれの学年でも、ヤングケアラーの疑いのある子どもが欠席や遅刻・早退が多い傾向となっています。また、睡眠が足りていないは、小学5年生では、全体と比べ 30 ポイントほど高くなっています。さらに、朝食をとっているかは、中学2年生と高校2年生で「とっていない」が多い傾向となっています。また、普段の生活で当てはまること(できていないこと)としては、「宿題や課題ができないことが多い」がすべての学年で全体と比べ高くなっており、また、学年にもよりますが、「持ち物の忘れ物が多い」、「部活動や習い事を休むことが多い」、「提出物を出すのが遅れることが多い」、「友達と遊んだり、おしゃべりしたりする時間が少ない」などの項目も高くなっています。これらの項目に複数該当する子どもはヤングケアラーの疑いがあると考えられます。
- 悩みや困りごとでは、全体と比べると、いずれの学年も「特にない」が 20~30 ポイント程度低く、悩みや困りごとが多い傾向が読み取れます。小学5年生では「友達のこと」「学校の成績のこと」「家族のこと」「生活や勉強に必要なお金のこと」などで全体と比べポイントが高く、中学2年生・高校2年生では、「学業成績のこと」「進路のこと」「学費など学校生活に必要なお金のこと」「自分の自由時間がもてないこと」「自分と家族の関係のこと」「家族内の人間関係のこと」などで全体と比べポイントが高くなっています。
- 相談相手については、小学5年生では「家族」「友達」が低くなっており、家族や友達には相談しにくい状況がうかがえます。また、中学2年生と高校2年生では「友達」が高くなっており、「友達」には比較的相談しやすい状況がうかがえました。
- 相談しやすい「方法」では、中学2年生・高校2年生では、全体と比べ「インターネットやSNSなど文字で相談する方法」「自分の情報は知られずに相談できる方法」が高くなっています。
- ヤングケアラーの認知度は、全体と比べ、すべての学年でポイントが低くなっています。ヤングケアラーの疑いのある子どもについては、当事者としての自覚がない場合も想定する必要があると考えられます。
- 「ヤングケアラーという言葉聞いたことがある」については、中学2年生と高校2年生では、今回実施した「大府市の人権講話」や「学校」のポイントなどが高くなっています。
- 人権講話の感想では、いずれの学年で、全体と比べ「自分がヤングケアラーに当てはまるかもしれないと思った」が高くなっています。

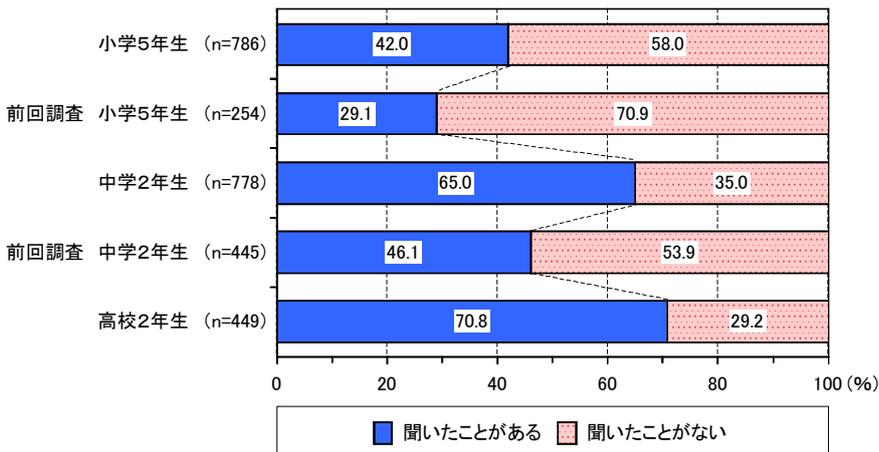
表 ヤングケアラーと思われる子どもが該当する状況(全体との違い)

項目	主な回答・傾向		
	小学5年生(33件)	中学2年生(12件)	高校2年生(9件)
欠席をする	全体と比べ、「たまにする」が25.1ポイント高い	全体と比べ、「たまにする」が13.0ポイント高い	全体と比べ、「たまにする」が3.9ポイント高い
遅刻・早退する	全体と比べ、「たまにする」が11.5ポイント高い	全体と比べ、「たまにする」が6.8ポイント高い	全体と比べ、「たまにする」が8.6ポイント高い
習い事をしている	全体と比べ、14.3ポイント低い	—	—
睡眠が足りていない	全体と比べ、30.0ポイント高い	—	—
朝食をとっていない	—	全体と比べ、33.2ポイント高い	全体と比べ、19.9ポイント高い
普段の生活であてはまること(できていないこと)	宿題ができないことが多い、持ち物の忘れ物が多い、習い事を休むことが多い、提出物を出すのが遅れることが多い、友達と遊んだりする時間が少ない	宿題ができないことが多い、提出物を出すのが遅れることが多い	授業中に居眠りすることが多い、宿題や課題ができないことが多い、友達と遊んだりする時間が少ない
悩み・困りごと	友達のこと 学校の成績のこと 家族のこと 生活や勉強に必要なお金のこと	学業成績のこと、進路のこと 学費など学校生活に必要なお金のこと 自分の自由時間がもてないこと 自分と家族の関係のこと 家族内の人間関係のこと	
相談相手	全体と比べ「家族」「友達」「学校の先生」などが低い	全体と比べ「友達」「学校の先生」が高い	全体と比べ「家族」「学校の先生」が低く、「友達」がやや高い
相談しやすい方法	全体と比べ「その他」が高い	全体と比べ「インターネットやSNSなど文字で相談する方法」「自分の情報は知られずに相談できる方法」が高い	全体と比べ「インターネットやSNSなど文字で相談する方法」「自分の情報は知られずに相談できる方法」「平日の夜に相談できる方法」「学校のない日に相談できる方法」が高い。
ヤングケアラーの認知度	全体と比べ「聞いたことがない」が8.7ポイント高い。	全体と比べ「聞いたことがない」が15.0ポイント高い。	全体と比べ「聞いたことがない」が15.2ポイント高い。
市が企画するサロンへの関心	全体と比べ、「料理教室」が9.0ポイント高い。	全体と比べ、「キャリア講座」が21.8ポイント高い。	全体と比べ、「キャリア講座」「メンタルヘルス講座」が7～10ポイント程度高い。
人権講話の感想	全体と比べ、「自分がヤングケアラーに当てはまるかもしれないと思った」が19.0ポイント高い。	全体と比べ、「自分がヤングケアラーに当てはまるかもしれないと思った」が21.0ポイント高い。	全体と比べ、「自分がヤングケアラーに当てはまるかもしれないと思った」が68.6ポイント高い。

### 3. 子どもの調査結果

#### 3-1 ヤングケアラーの言葉の認知度

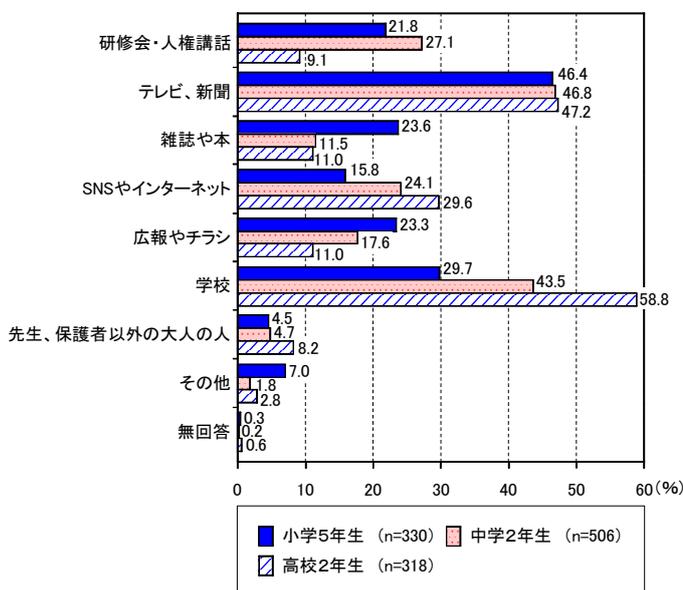
- 小学生・中学生向けアンケート結果では、ヤングケアラーという言葉を知ったことがあるかについて「聞いたことがある」が、小学生では42.0%(前回調査29.1%)、中学生では「聞いたことがある」が65.0%(前回調査46.1%)、高校2年生では、70.8%となっており、学年が上がるにつれて高くなっています。また、前回調査との比較では、「聞いたことがある」が小学5年生では12.9ポイント、中学2年生では18.9ポイント増加しており、昨年と比べ認知度が高まっていることがうかがえます。他方で、社会的な関心が高まり、テレビや新聞などでも目にする機会が増加している中、小学生では6割、中学生では3割強、高校生では3割が「聞いたことがない」と回答していることから、引き続き継続的な周知が求められます。



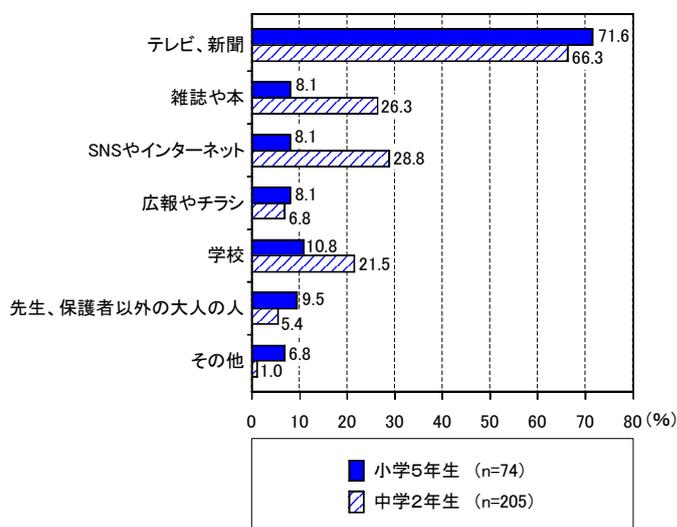
#### 3-2 ヤングケアラーの言葉を知った媒体

- ヤングケアラーという言葉を知った媒体は、すべての学年で、「テレビ、新聞」や「学校」が上位にあがっています。特に、高校2年生では、「学校」が最も高くなっています。「学校」のポイントは、前回調査と比べ、小学5年生では18.9ポイント、中学2年生では22.0ポイントと大きく増加しており、学校による周知の機会が増えたことで、認知度の向上につながっていることがうかがえます。

【今回調査】

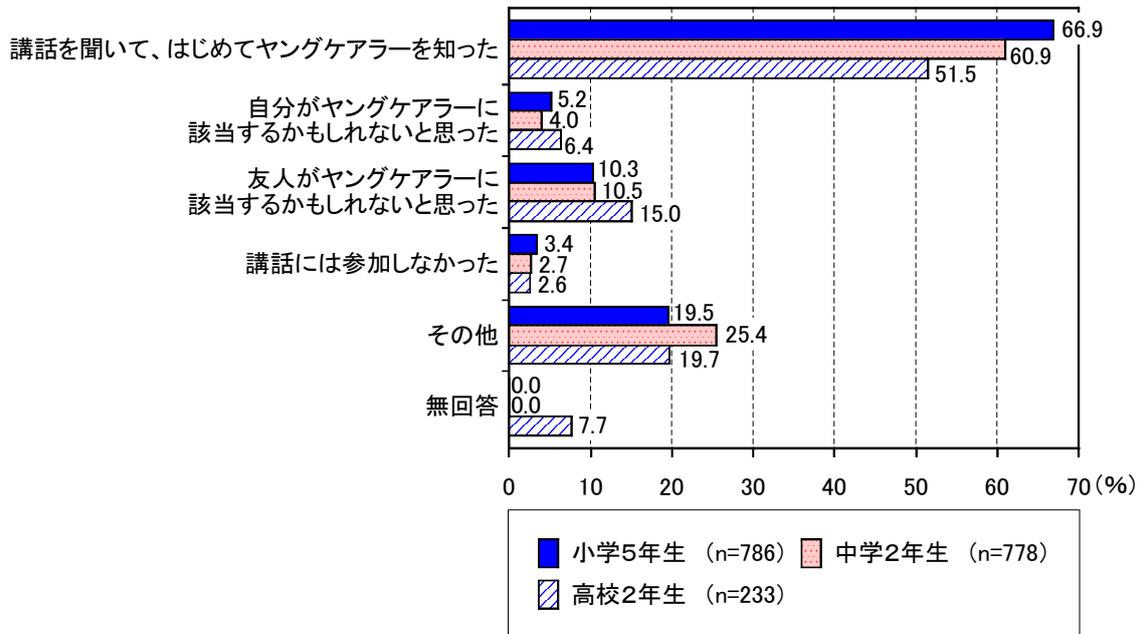


【前回調査】



### 3-3 大府市による人権講話の感想

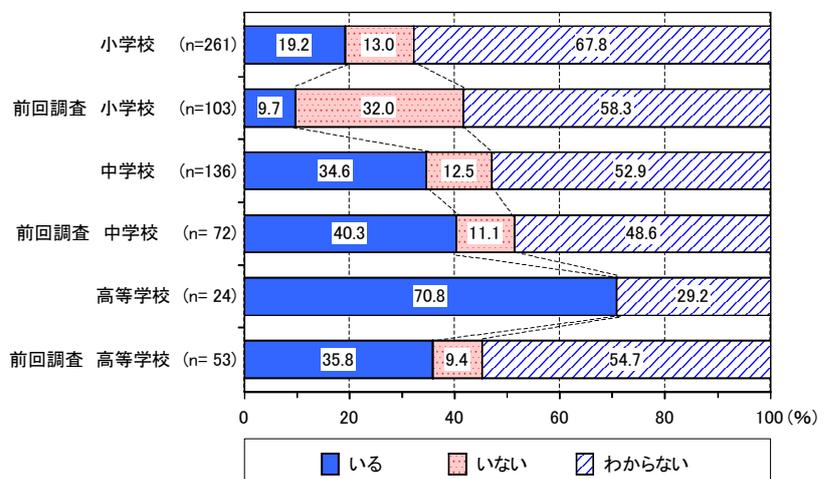
- 今回実施した「大府市の人権講話(ヤングケアラーに関する講座)」の感想については、すべての学年で、「講話を聞いて、はじめてヤングケアラーを知った」が50%を超えて最も高くなっています。他にも、「自分がヤングケアラーに該当するかもしれないと思った」や「友人がヤングケアラーに該当するかもしれないと思った」などの回答も一定みられました。市によるヤングケアラーに関する講座は、ヤングケアラーの認知度向上とヤングケアラー当事者の自覚の促進、周囲の友人による当事者の発見に効果的に寄与するものとして、今後も継続的に取り組むことが必要と考えられます。



## 4. 教職員の調査結果

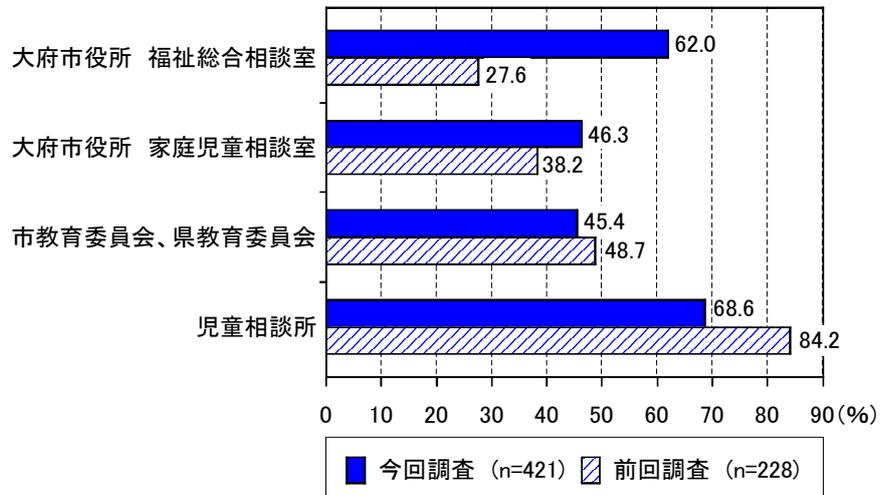
### 4-1 ヤングケアラーの疑いのある子どもの有無

- 学校教職員向けアンケート調査の結果では、ヤングケアラーの疑いのある子どもの有無は小学校では「いる」が19.2%(前回調査9.7%)、中学校では「いる」が34.6%(前回調査40.3%)、高等学校では「いる」が70.8%(前回調査35.8%)となっており、学年が上がるにつれて、ヤングケアラーと思われる子どもを教職員が認識している割合が高くなる傾向にあります。なお、前回調査と比較すると、「いる」の割合は、今回調査は小学校で約10ポイント、高等学校では約35ポイントと高くなっています。



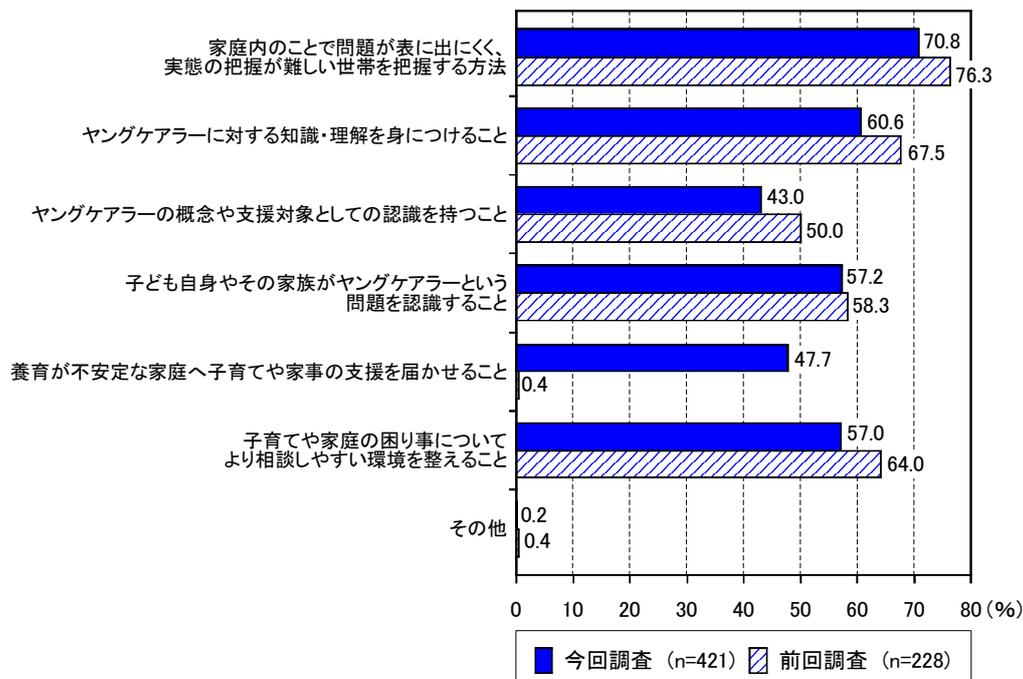
## 4-2 ヤングケアラーの問題について相談できる場所

- ヤングケアラーの問題について相談できる場所については、「児童相談所」「大府市役所 福祉総合相談室」「大府市役所 家庭児童相談室」などが上位にあがっており、特に、前回調査との比較では、「大府市役所 福祉総合相談室」が高くなっています。今回のアンケート等を通じて、ヤングケアラーの問題に関する相談先として、学校以外にも、大府市役所福祉総合相談室が活用できるという認知が進んでいると考えられます。



## 4-3 ヤングケアラーの子どもを支援する上で重要なこと

- ヤングケアラーの子どもを支援する上で重要だと思うことは、「家庭内のことで問題が表に出にくく、実態の把握が難しい世帯を把握する方法」、「ヤングケアラーに対する知識・理解を身につけること」「子ども自身やその家族がヤングケアラーという問題を認識すること」が上位となっていました。ヤングケアラー自身とその家族のみならず、家族をとりまく学校や地域等の周囲の大人も含めて、ヤングケアラーという問題を認識し、ヤングケアラーに対する知識・理解を身につけることが何より重要であると考えられます。



調査結果に関するお問い合わせは、大府市役所 福祉部 福祉総合相談室(TEL0562-45-6219)まで